

「癌患者の症状のコントロール」

武田文和 石垣靖子 編集

国立がんセンター・外科医長

笹 子 三津留

実際に苦労を重ねた者にしか書けない視点

医療が進んだ今日、他の疾患で死亡する人が減少するにつれて癌死亡は上昇し、現在4人に1人が癌で死ぬ状況にある。そして癌の治療医学の目覚ましい発達にもかかわらず、癌が死に直結する可能性を持つ病気であることに変わりはない。私は癌の告知とインフォームドコンセントを極力実践している。それにより、今まで意識してこなかった、もしくは避けてきた多くの問題が避けて通れなくなった。それと同時に、今までのような患者を騙し、患者の心から目を外らせたような医療では決してわからなかった難問の答えがいつも簡単にわかってきたことも事実である。本書を読んでみて、まず著者

の方々の真剣な「思い」がひしひし伝わるのを感じた。そして、本書が実際に苦労を重ねた者にしか書けない視点を備えており、これから苦労をする人にとって極めて有用な内容であることに感心させられた。

癌の医療に正面から取り組みれば取り組むほど、医療従事者は逃れられない多くの問題を抱え込む。癌を告知してインフォームドコンセントに基づいて医療を進めるとき、今までになかった多くの利点があるかわりに、新しい問題も生じてくる。癌の告知を受けた直後、治療が肉体的また精神的に辛い時期、治療が無効で積極的治療を断念しなければならないとき、末期で痛みの激しいときなどをどう乗り切るかが鍵になる。

癌医療に必要なケアのすべてをカ

バー

本書では癌医療におけるポイントというべきこれらの時期に必要なとなるケアのすべてがカバーされている。癌の医療においては、身体的なケアと精神的ケアは表裏一体であり、切り離すことはできない。特に癌の根治の希望を断念した palliative care の段階に入った患者さんにとっては、生きる希望を持ち続けられることは絶対条件である。それを保証するのは科学的根拠に基づいた QOL のサポートのテクニックであり、医療者と家族による精神面でのサポートである。本書は簡潔に分かりやすく、臨床に即してこれらの点について書かれており、マニュアルとして病棟に置いておくのに適している。今までの知識を整理したり、これからこういう医療に取り組もうという人にも適した書と言える。本書を基に各々の職場に応じた工夫をしてゆけば、すばらしい癌の医療が全国で行われるようになると思われる。

A5 変型判 174 頁 1991 年 定価
2,575 円(税込) 送料 300

医学書院 刊